

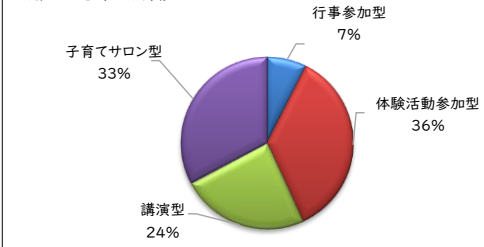
【東濃版】令和4年度家庭教育学級実施調査の結果③

I 市主催の取組

(1) 未就学児保護者対象

開催形態	回数	%
行事参加型	18	7.5
体験活動参加型	86	35.7
講演型	58	24.1
子育てサロン型	79	32.8
在宅取組型(i)	0	0.0
在宅取組型(ii)	0	0.0
合計	241	100.0

開催形態(5分類)



(3) 抽出質問項目実施している市の数

学習内容分類(2)	未就学児	小中
ア 基本的な生活習慣に関わる学習	4	5
イ 食育に関わる学習	3	2
ウ 人権・いじめに関わる学習	2	4
エ スマホ・SNS・情報モラル学習	2	2

開催にあたっての工夫	未就学児	小中
I マニュアルの活用	2	2
II プログラムII(乳幼児編)	3	1
III プログラムIII(小・中学校)	1	2
IV プログラムIV(次世代編)	1	1
V 開催日時の工夫	1	4
VI 型の組み合わせ	2	2
VII タブレット端末の活用	1	1

【学習内容に関して】

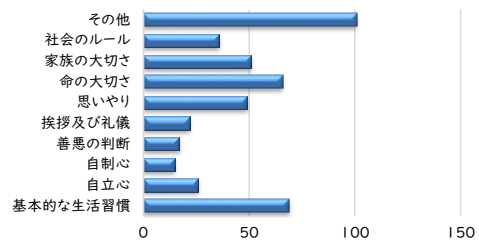
未就学児、小中とも基本的な生活習慣に関わる学習を取り扱っている市が多くあります。これらのほかに、性に関することを中心テーマに扱っているPTAがあります。

【開催にあたっての工夫】

マニュアルやプログラムは必要に応じて活用されています。保護者の参加しやすい日時や形態(リモートの活用など)も工夫されるようになりました。

学習内容	回数	%
基本的な生活習慣	69	15.3
自立心	26	5.8
自制心	15	3.3
善悪の判断	17	3.8
挨拶及び礼儀	22	4.9
思いやり	49	10.8
命の大切さ	66	14.6
家族の大切さ	51	11.3
社会のルール	36	8.0
その他	101	22.3
合計	452	100.0

学習内容(9分類)別実施回数



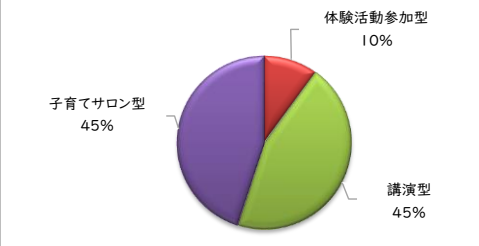
【未就学児保護者に対する家庭教育の取組】

特に、多くの乳幼児学級ではサロン型の開催をめざしていることもあり、コロナ禍にあってもその割合は高いことが特徴です。学習内容については、基本的な生活習慣や家族の大切さを中心に多様な学習内容が取り上げられています。

(2) 小中学校期保護者対象

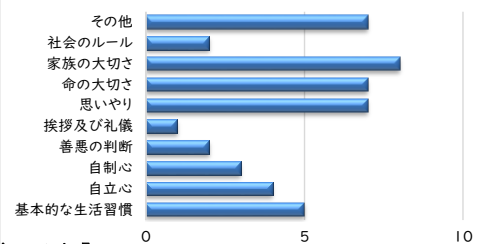
開催形態	回数	%
行事参加型	0	0.0
体験活動参加型	2	10.0
講演型	9	45.0
子育てサロン型	9	45.0
在宅取組型(i)	0	0.0
在宅取組型(ii)	0	0.0
合計	20	100.0

開催形態(5分類)



学習内容	回数	%
基本的な生活習慣	5	10.9
自立心	4	8.7
自制心	3	6.5
善悪の判断	2	4.3
挨拶及び礼儀	1	2.2
思いやり	7	15.2
命の大切さ	7	15.2
家族の大切さ	8	17.4
社会のルール	2	4.3
その他	7	15.2
合計	46	100.0

学習内容(9分類)別実施回数



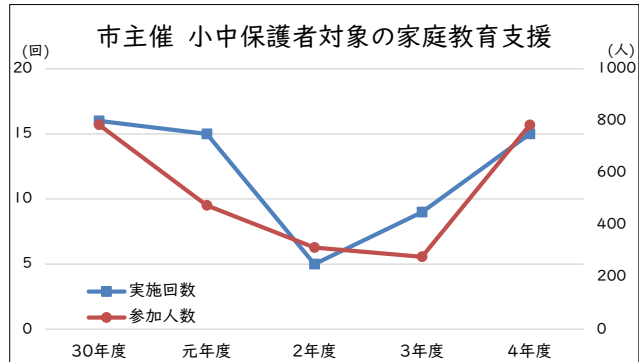
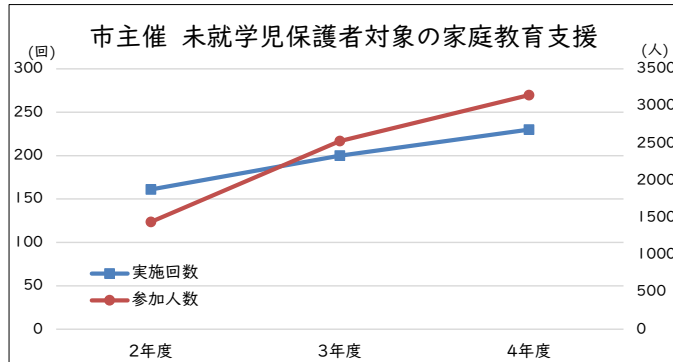
【小中学生保護者に対する家庭教育の取組】

講演会型で実施される場合が多く、ICTを活用しオンデマンド形式で行われる例もありました。今年度は特に参加者が聞くだけに終わらないように、子育てサロン型で意見交流を行うなど工夫がなされるケースが多くなっています。各市の担当課による工夫がありがたいです。学習内容については、命の大切さ(性に関することを含む)、基本的な生活習慣、家族の大切さを中心に多様な内容が取り上げられています。

2 経年変化

未就学期	2年度	3年度	4年度
実施回数	161	200	230
参加人数	1441	2528	3,147

小中中期	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
実施回数	16	15	5	9	15
参加人数	785	475	314	278	784



【経年変化】

未就学児保護者に対する家庭教育は、令和2年度から調査対象となりました。公民館等の乳幼児学級のほか、乳幼児の健康診断、発達相談などの機会など保護者への多様なアクセスが各市で工夫して行われているものの、調査されていないケースが多いため、調査されていないことが家庭教育に資するという認識を関係部署で共通理解することが重要と考えます。

小中学生保護者に対する家庭教育については、コロナ禍の影響で実施回数・参加人数とも半減しましたが、やっと回復傾向となりました。

(元年度まで調査は小中別で行われましたが、2年度からは小中一括で調査となったため、元年度までの値は小中累計での数値となっています。)